

令和3年度第1回七尾市総合教育会議 議事録

【日時】 令和3年11月24日（水） 16時から17時まで

【場所】 七尾市役所5階 災害対策本部室

【構成員】 七尾市長 茶谷 義隆、七尾市教育委員会教育長 黒崎 直人
教育委員会教育長職務代理者 寺岡 卓子、
教育委員会委員 大森 重宜、播摩 正義、津田 康子

【事務局ほか職員】

総務部長 橘 茂樹、教育部長 新野 学、
企画財政課長 松田 直樹、教育総務課長 横川 俊充、
学校教育課長 山原 真吾、スポーツ・文化課長 善端 直、
企画財政課参事 亀山 哲也、企画財政課課長補佐 立川 淳、
教育総務課課長補佐 堀口 嘉久、

【議事】

- 1 開会
- 2 協議 (1) 第2期総合戦略 ふるさと教育の推進について
(2) 学校部活動のあり方について
- 3 閉会

【議事の経過】

1 開会

松田企画財政課長

ただいまから、令和3年度第1回総合教育会議を開会いたします。

茶谷市長

これまで七尾市教育大綱の策定や教育行政の諸課題について委員の皆様方と意見を交換してまいりました。第2次七尾市総合計画を進めていく中で、七尾市教育大綱に掲げた基本理念を共有しながら、当市の教育行政がよりよい方向に進んでいくための有意義な機会にしたいので、よろしくをお願いします。

2 協議

- (1) 第2期総合戦略 ふるさと教育の推進について「七尾ふるさと文庫館」・・・
(茶谷市長・新野教育部長説明)

寺岡委員

- ・これは固定した展示ということで理解してよいか。

新野教育部長

・固定は、杉森久英さんの作品を展示することと、コーナーについては、随時シリーズごとに企画展をやっていく。

寺岡委員

一度訪れて終わりじゃなくて、何度も訪れていただくための仕掛けづくりがあれば良いと感じた。

茶谷市長

・オジロマコトさんの「君は放課後インソムニア」が、今後発展していく可能性がある。年明けに話が出てくると思う。

大森委員

・現代の我々が親しんだ作品はとても面白くて、もっと浸透させていくべきだと感じる。

・もっと七尾の事を市民に知ってもらうことを次の段階で考えてほしい。おそらく誰が七尾を作ったのか市民はほとんど知らないと思う。

・七尾市民の子どもから大人までが自信の持てるような、さまざま事をプロジェクト的に検討する人たちが集まってもいいと思う。例えば冊子のようなものが出来たらと思う。

・市民が七尾を誇りに思えるような何かしらのことをすることが、教育委員会の重要な役割ではないかと考える。

黒崎教育長

・学校現場で申すと、コロナ禍で小中学校において修学旅行や遠足などが2年間にわたり縮小や中止になった。昨年からは、それに変わる遠出をしない七尾を知る良い切っ掛けづくりを学校現場へお願いした。

・今年は、6校が七尾城跡を登ったり、バスで頂上まで行ったりというようなこともあった。子どもたちに聞くと、半数以上が初めて登ったことが分かった。

・七尾市内でオリエンテーリングを実施し、七尾の魅力を見つけるようなことをした。

・ふるさと七尾を知らずして、世界を語ることは出来ないだろうと思っている。子どもたちが、世界に羽ばたけるようなそんな人材を作っていかなければならないと思っているので、そういう意味では、地元七尾を知らない発信できないだろうと思っている。

・大森委員の話の中でも歴史的なことがあった。そうなる図書館もさることながら、のと里山里海ミュージアムも少しどこかで棲み分けをすとか、そういった検討をしていかなければならないのかなと思っている。

茶谷市長

・私はでか山や小丸山城址公園で遊び生まれ育った。七尾城跡は遠足で行く場所、歴史的なものを学ぶ機会がなかった。ふるさとを自分の誇りとするために、そういう機会をしっかりと作っていかれたらと思う。

寺岡委員

・昨日の新聞で、輪島の小学校の男の子の投稿があり、遠足で輪島の朝市と漆芸美術館へ初めて行ったとあった。七尾の子どもたちにも、七尾の宝物探しをしながら、知って、感じて、見て、聞いて、学んで考える、そういう心が育っていくと一番良いと思っていて、その切っ掛けになる七尾ふるさと文庫館にしても、魅力あるものにしていただけたらと思う。

黒崎教育長

・杉森久英さんの作品、あるいは七尾の作家さんのことを子どもたちに問いかけても、それは誰だとなると思う。今まで眠っていた作家さんの功績、あるいは作品をここでお披露目されることは、七尾市や子どもたちにとって、どれだけ大きなものになるのかと思う。そういった意味では、七尾ふるさと文庫館で杉森久英さんや七尾ゆかりの方々の作品を見られるのは、七尾市民にとっての、ある意味誇りになる施設として捉えていいと思う。

(2) 学校部活動のあり方について・・・(茶谷市長説明)

大森委員

・スポーツを教育として考えるならば、スポーツの目的は人格形成なので、エンターテイメントに走ってしまうと上手くない。スポーツを文化化したときに、重要だったことがエンターテイメントになるだろうか正に経済産業省が考えていることになる。

・文化化すると同時に、観光化しなければいけないという考えがあった。観光化に必要なのは何かというと、健全化しなければいけない。エンターテイメントが過ぎると教育的な役割を失う。

・学校を開放しながら、外部コーチや教育者などの登用をどうするのかという問題にもなるが、そこをよく考えて地元の体育協会の方々を啓もうして、中心でやっていきたいと思いますということになる。

・学校教育と連携しながら、人格教育を前提としてプロスポーツを使っていけないといけないと思う。

・東京オリンピック以降は、国の方針としては健康に資することなきスポーツには予算が付かなくなる。これは国の決定事項になる。

・地元で自信を持ってもらうことと通じることだと思っているので、ここにいくらお

金を掛けても見返りが必ずある事業だと思うので、これも継続的にやっていくべきであると思う。

- ・子どもたちが少なくなったと嘆くよりも、その人たちがどのようにできるのかということになる。実際に各団体スポーツ競技者が減っている。それを助けるためにどうしたらいいのか。

- ・学校の横断的な、それを点と点で繋げる縦断的な発想も必要である。体育協会に頑張ってもらいたい。

茶谷市長

- ・大阪に居るときに、小学生のバレーボールの指導をしていて、当時はスポーツ指導員の資格を取らないと駄目だった。その中で、コーチングであるとか、トップダウンで指示するのではなく、あくまでメインはプレーヤーであることなど、スポーツの在り方をしっかり学ばせていただいた。そこをプロスポーツ選手は学んでいるし、技術も高いレベルで持っている。子どもたちに指導していけるような環境が必要である。

- ・部活に関しては、そのスポーツに精通した先生から、担当として充てられる先生もいる。子どもたちの能力をしっかりと伸ばして上げられる環境を作られれば良いと思う。皆さんと協議しながら進めていければと考えているので願います。

寺岡委員

- ・資料を読んだときに理解が出来なかった。部活動とスポーツクラブと産業がどうしても結びつかなかった。学校の部活動で大事なのが教育であるし、人間力を磨いたり、中学校の大事な時期だったりする。

- ・勝ち負けもあるが、子どもたちが培った社会へ出ても頑張れる力が親の求めているもの。子どもの心の成長、仲間と喧嘩しながらでも切磋琢磨していく姿、プロを目指すだけ、強いだけではなくて、大事なところは忘れて欲しくないと思った。

- ・実際にある学校で、プロの選手に月何回か来てもらって部活をしている話があって、保護者が謝礼を払っている。外部指導者に支払う保護者の負担が多くなり、家庭の状況により参加を諦める生徒が出て来ないか心配だと思うし、いろんなメリットデメリットがあるので、良いところを掛け合わせて心と体の成長できる場であって欲しい。

- ・七尾市でやったとしても楽しめるような場を作ってくれば良い。

- ・スポーツや文化に親しむような環境を作るための役割が部活動である。指導者や用具の確保には行政の財政支援が必要となる。よろしく願います。

茶谷市長

・話し合いの中で意見があったが、そういったところをコントロールするのが体育協会で、技術的なところをプロのスポーツ選手にお願いするのがいいと思う。お互いに専門的なところを協力しながら出来れば良い。

黒崎教育長

・私も部活命でやっていた。指導が出来たので外部コーチは入れなかった。今は専門性を持たない顧問の先生が増えているのは事実である。部活で上を目指したい、もう一方では楽しみたい、また仲間と一緒に取り組みたいというレベルの子どもや保護者がいるのも事実である。

・専門性のない監督のほうで外部コーチを入れている例を見ると、監督の人脈で外部コーチを入れていることが多い。だとしたら、市長が言うように、体育協会のそれぞれの協会が、外部コーチの派遣をこちらから依頼して派遣していただくような連携が、現実ではそうではなかったところを少しヒントでいただいたような気がする。

・これからは部活、体育協会の両者が連携をしながら取り組んでいく、その形の発展的なところで経済産業省が出しているような形にも見えてくるのかなど思っている。

大森委員

・おおもとになったのが、昔、西ドイツにゴールドンプランがあった。コストを抑えるために同じ形の体育館を作り、子どもから大人に至るまで効率よく遊ばせ、スポーツを通じて人生を豊かなものにしようとなった。それを真似て今の知事もそのような発想でスポーツセンターの建設にあたった。

・和倉のサッカー場を使って、日本一になった星稜と高岡第一がよく来られて、練習会や試合をした。我々の知らないようなサッカーのシステムがあって、サッカーが面白い形を持っている。

・総合型地域スポーツクラブが上手くいかなかったのは総合でやってしまったからで、実は単体でやった成功事例がある。各競技団体に強化と場の提供をして、きめ細やかなことをやっていけば今の七尾なら出来ると思う。もう少し時間が経って、このシステムがないと崩壊してしまうと思う。

・サッカーがいつまでここに来てくれるかわからない。招致的なことも考えながらやっていくのがいいと思う。

茶谷市長

・スポーツ環境でアリーナスタジアムが必要になってくると思っている。子どもたちにスポーツをする良い環境を作れるように議論していきたいと考えている。

黒崎教育長

- ・日本の部活動は、日本だけのシステムである。金泉市と交流していた時に、中学生の団長として引率していたことがあり、向こうの校長と話をしていた時に日本の部活の話をしたら驚かれた。
- ・外部にスポーツクラブなどのシステムを作っていくのは体育協会になるのか分からないが、そういうところがイニシアチブをとってやっていくところがヒントになると思っている。

津田委員

- ・部活は学びの場であるという前提で、子どもたちにスポーツをさせる意味合いであれば、授業の体育と部活との意味合いが曖昧というか、部活によって指導者のいるいないで変わってくる。大きな教育の場ということであれば、体育でプロの人たちに触れさせる、いろんな体育の場があれば面白いと思う。

茶谷市長

- ・児童生徒が減っていく中で、学校単位で試合に出られない状況を考えてときには一つの考え方だと思う。

黒崎教育長

- ・中体連や高体連にしても、学校部活単位でなければ参加が出来ない縛りがある。

大森委員

- ・七尾市が独特に、県内ではほかにやっていないけども、認めてあげられればモデルケースになると思う。今はいろんな大会がある。

茶谷市長

- ・たくさんの意見があった。この意見を踏まえて、よりよい方向に行ければと考えているので、引き続きよろしく願います。

3 閉会

松田企画財政課長

これもちまして、令和3年度第1回総合教育会議を閉会いたします。